

# 上海臨港ジャパンスク

上海市の中心部から南東へ約70kmの臨海地区で、産業エリアと商業・居住エリアを合わせた総面積300km<sup>2</sup>という巨大国家プロジェクト「臨港新城」の建設が本格化しはじめた。本稿では、開発の計画概要と、野村総合研究所（以下、NRI）が同地区に設置した日本企業向け投資相談窓口「上海臨港ジャパンスク」について紹介する。

## 注目を集める上海市の臨港新城開発

臨港新城は2003年に開発が始められているが、現在急ピッチで進められている産業エリアの開発プロジェクトは、上海市政府の第11次5カ年計画における最重点プロジェクトに位置付けられている。5カ年計画とは中国の政策の根幹をなすもので、5年ごとに中国中央政府ならびに各地方政府が策定しており、2006年は第11次の計画期間（2006～2010年）の初年度にあたっている。

産業エリアの開発総面積は200km<sup>2</sup>であり、じつにJR山手線内側の面積の3倍という巨大な規模である（図1参照）。この産業エリアに隣接して100km<sup>2</sup>規模のニュータウン「海港新城」（商業・居住エリア）の建設計画も進められており、臨港新城の居住人口は最終的に100万人（2020年）と想定されている。いわゆる「開発区」というイメージよりも、むしろ上海郊外に計画されている衛星都市開発プロジェクトというほうが実態に即していると思われる。

上海市は中長期的な発展計画を、国際経済、金融、貿易、航運の4つの軸に沿って進めている。臨港新城は世界最大のコンテナ港を目

指す洋山深水港と一体となった上海市の航運の中心と位置付けられている。洋山深水港は臨港新城と海上32キロの橋（東海大橋）で結ばれたコンテナ港であり、2005年12月に第1期工事が完了し、すでに欧州航路、北米航路を中心に稼働している。臨港新城の産業エリアは保税、保税物流園、輸出加工の3つの機能をあわせもつ中国唯一の保税港として、進出企業への投資メリットを他の開発区と差別化するなどの政策的な措置がとられている。

また産業エリアは大型装置製造業エリアをはじめ、中国における製造業の高付加価値化のモデルエリアと位置付けられている。中国現地の大手企業や欧米企業を中心に進出が進んでおり、すでに操業を始めている物流企業もある。

2006年4月14日に開催された日系メディア向けの現地説明会では、産業エリアの開発主体である上海市政府の外郭団体、上海臨港経済発展(集団)有限公司の董事長(会長)、劉家平氏は、日本企業の進出による同エリアへの産業集積の進展に大きな期待を示した。

## 投資相談窓口「上海臨港ジャパンスク」

NRIでは、2003年にこの臨港新城産業エリ

NRI上海  
副総経理

**野中利明** (のなかとしあき)

専門は中国マーケティング戦略、日本  
企業の中国への投資誘致戦略



アの発展戦略の策定を上海市政府の委託を受けて行っている。さらに2006年1月より、前出の上海臨港経済発展(集団)有限公司の委託により、同区への日本企業の投資相談窓口サービス「上海臨港ジャパンデスク」を開始した(ジャパンデスク問い合わせ専用メールアドレス: sh-lingang@nri.co.jp)。日本企業の投資に関するさまざまな相談を、上海市政府に代わって無償で受け付けるものである。すでに投資検討に必要な各種情報、コンサルティングサービスを多くの企業に対して提供している。

一般に開発区の投資誘致という  
とPR一辺倒のものが大半である

が、ジャパンデスクは中立的な立場で開発側と日本企業との間に介在することで、より客観的かつ迅速な投資判断が可能になることを目指している。NRIは台湾と韓国でも同様の企業誘致プロジェクトを実施しており、とくに台湾では台湾政府の委託を受けて10年以上にわたる活動を続けている。

上海でもNRIのジャパンデスクが開設されることになったのは、NRIが上海市や北京市の第11次5カ年計画の策定支援など中国政府向けのプロジェクト実績を多数積んできていること、日本でのコンサルティング業務を通じて日本の主要産業界および主要企業の動向



図1 開発区域の位置(上海臨港経済発展(集団)有限公司の資料より)

に精通していることが高く評価されたためと思われる。

### 安心して利用できる相談窓口として

上海臨港ジャパンデスクは、開発区域の中長期的な発展戦略をサポートする活動の一環として、投資環境整備への助言を通じて継続的な企業誘致を可能にするための仕組みと言える。発展戦略の策定支援という「上流」から企業の誘致という「下流」までのフルサポートの一環として設置された投資相談窓口の存在は、進出を考える企業にとっても安心かつ利便性の高いものと言えよう。